投稿

わが国の中高生の飲酒行動に関する全国調査

——2000年度調査報告——

尾崎 米厚[*1] 鈴木 健二[*2] 和田 清[*3]
山口 直人[*4] 簑輪 眞澄[*5] 大井田 隆[*8]
土井 由利子[*6] 谷畑 健生[*7] 上畑 鉄之丞[*9]

目的　2000年度におけるわが国の中高生の飲酒行動実態を明らかにするために全国を代表するようなサンプリング方法に従った全国調査を実施した。

方法　断面標本調査を実施した。調査対象は全国の中学校と全日制高等学校であった。地域ブロックを層とし，学校をクラスターとする層別1段クラスター抽出により抽出された学校の在校生徒を調査対象とした。2000年12月から2001年1月にかけて，学校において無記名，自記式質問票による調査を実施し，中学校99校(学校協力率75.0%)，高等学校77校(学校協力率75.5%)から回答があり，調査票107,907通が回収され，記入が不十分なものを除いた106,297通を解析対象とした。

結果　月飲酒者率(現在飲酒者率)をみると，男女とも学年が上がるにつれ上昇する傾向にあった。中学1年の男子で24.5%，女子で22.8%であった月飲酒者率が，高校3年では男子で53.4%，女子で45.2%となった。飲酒機会別の飲酒経験率をみると冠婚葬祭が男女とも高かった。家族と一緒のときも経験率が高かった。「クラス会，打ち上げ，コンパの時」「居酒屋，カラオケボックス，飲み屋で仲間と」「誰かの部屋で仲間と」飲んだとする者の割合は学年が上がるにつれ急激に上昇した。初めての飲酒年齢を1996年度調査(前回の全国調査)結果と比較すると特に男子で飲酒経験年齢の上昇がやや認められた。よく飲むお酒の種類は男子ではビールが最も多く，次いでアルコール度が低く甘いお酒(果物味などの甘いお酒；リキュール類)，焼酎類であった。女子では果物味などの甘いお酒の方がビールよりよく飲まれていた。焼酎およびサワー類は低学年では多くはないが，男女とも学年に伴って急激に増加した。酒の入手経路のうち「コンビニエンスストア等の店で買う」「居酒屋等で飲む」「酒屋で買う」「自動販売機で買う」は，いずれも学年に伴って割合が急激に増加した。しかも男女差があまり認められなかった。お酒を飲んで失敗した経験は「吐いた」「記憶が消えた」「親に叱られた」の順に多かった。親にお酒を勧められたことがあると回答した者は，男女とも学年が上がるにつれ増加し，高校3年生では男女とも4割以上であった。

結論　わが国の中高生の飲酒実態は既に深刻な状況にあり，女子の飲酒者率など一部では状況の悪化も心配される。他方，飲酒経験者率の低下や酒の入手経路の減少など良い変化の兆しも認められたので今後とも全国調査による継続的監視が必要である。

キーワード　飲酒行動，未成年，全国調査，自己記入法

＊1 鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野助教授　＊2 国立療養所久里浜病院精神科部長
＊3 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長　＊4 東京女子医科大学衛生公衆衛生学教授
＊5 国立保健医療科学院疫学部長　＊6 同社会疫学室長　＊7 同主任研究官
＊8 日本大学医学部公衆衛生学教授　＊9 聖徳大学短期大学部教授

I 緒　言

未成年者の飲酒行動は，アルコールによる健康障害のみならず交通事故や非行，性感染症のリスク等様々な健康問題，社会問題と関連があり大きな社会問題となっている[1)-3)]。また，飲酒行動が低年齢で開始されるほどそれらの問題は大きいと言われ[2)]，中高生からの飲酒教育が重要視されている。欧米諸国では，青少年の健康問題を含めた生活全般に関する調査や薬物使用に関する調査の一部として国家的な規模で未成年者の飲酒行動が調査されてきている[4)-12)]。しかも，その多くは定期的に行われており，経時的な変化もつかめ，各国の未成年の飲酒問題対策に重要な情報を提供してきている。一方，わが国には，未成年飲酒禁止法があるにもかかわらず，多くの未成年者が既に飲酒していると考えられているが，全国を代表するような未成年の飲酒行動についての調査は1996年に1度行われたのみであり[13)14)]，その後の動向はつかめていない。

未成年者の飲酒行動に関連する要因を明らかにすることは，飲酒対策を策定するに当たって重要な情報を提供することにもなる。そこでわれわれは，1996年の全国調査の結果と2000年の実態を比較するために，1996年の調査と同様な全国を代表するような科学的な調査方法による未成年の飲酒行動についての調査を企画した。これにより全国の中高生の飲酒行動の実態とその関連要因が明らかになり，未成年者の飲酒対策をさらに推進するための基礎資料を提供することができる。さらに，前回の調査結果は健康日本21の未成年の飲酒行動に関する目標値のベースライン値になっているが，その最新の情報を提供することにもなるし，定期的に調査を繰り返すことにより行政施策の評価も含めた実態のサーベイランスとなる。

II 方　法

(1) 調査対象と調査内容

調査デザインは断面標本調査であった。調査は全国の中学校と高等学校(全日制の私立・公立高校)を対象とした。1999年5月1日現在のわが国の学校名簿である「2000年全国学校総覧」に登録されている中学校11,220校，高等学校5,315校のうち中学校132校，高等学校102校を抽出して調査を行った。調査時期は2000年12月～2001年1月末であった。研究方法の詳細は他の論文を参照されたい[15)]。

1) 抽出方法

抽出方法は層別1段クラスター抽出であった。地域ブロックごとの飲酒率を検討するために，層別抽出は地域ブロックを層とした(中学校は12層，高等学校は6層)。調査対象生徒は，抽出校の在校生徒全員とした(学校をクラスターとした)。抽出標本数(サンプルサイズ)は，1990年に行った中高生の喫煙行動に関する全国調査で得られた学校別喫煙率の分散と調査回答率が飲酒行動調査の場合も同様であると想定して算出した[16)17)]。中学校では，全国の飲酒率推定値の95%信頼区間を±0.5%とするために132校を，高等学校では，全国の飲酒率推定値の95%信頼区間を±1.5%とするために102校必要であると算出された。これを地域ブロック別の中高生数に割り振り，確率比例抽出にて各学校を抽出した。

2) 調査内容

調査内容は，1996年度の全国調査の内容と諸外国で行われた未成年者の飲酒行動に関する調査内容を参考にして決定した。飲酒頻度，初めての飲酒年齢については，アメリカ合衆国等の諸外国の調査との比較ができるように同一の基準を設けた。飲酒量，飲酒機会，飲酒場面，飲むお酒の種類，入手経路，お酒を飲んで失敗した経験等は，それぞれの国により特徴が異なるのでわが国で今までに行われた調査を参考に，多少の修正を加えて作成した。飲酒行動の関連要因として飲酒に関連のある疾病と出来事についての知識，飲酒は体に悪いと思うかどうか，

未成年の飲酒禁止に対する意見，学校で飲酒と健康について教わった経験の有無，家庭で未成年の飲酒について話したことがあるかどうか，家族や友人の飲酒状況，親とのコミュニケーションの量(親と過ごす時間の長さ，親に悩みを相談する方かどうか)，親に飲酒を勧められたかどうか，親に酒を飲んでいるところを見つかったことがあるかどうか，朝食の摂取頻度，ジュース・炭酸飲料・コーヒーまたは紅茶の摂取頻度，クラブ活動への参加状況，学校が楽しいかどうか，将来の希望進路，を尋ねた。今回の調査は1996年度調査(前回調査)に加え，スナック菓子の摂取頻度，睡眠状況，うつ状態に関する項目を追加した。特に睡眠やうつ状態については，飲酒行動がこれらと関連があるという報告が海外の文献にみられるようになったからである。

(2) 調査の実施

1) 調査手順

抽出された学校の学校長に対し，調査の協力依頼文書と在校生全数分の調査票を送付した。調査への協力を受諾した学校では，担任が各教室内で調査票を配布して調査を行った。生徒は自記式無記名の調査票を記入直後，各自に同時に配布された糊付き封筒に調査票を封入した。教師は封筒を回収し，封を開けないまま返送してもらった。

2) 調査票回収状況

中学校は132校に依頼し，99校から協力が得られた(協力率75.0%)。高等学校は102校に依頼し，77校から協力が得られた(協力率75.5%)。調査票は107,907通回収され，性別や学年が不明であったり回答内容に矛盾のあった1,610通を除いた106,297通を解析対象とした。そのうち中学の有効回答数は47,246通(協力校生徒数の89.5%，調査対象者数の66.1%)，高校の有効回答数は59,051通(同じく87.3%と59.3%)であり，中高あわせると協力校生徒数の88.2%，調査対象者数の62.2%であった。

3) 集計解析

集計はSAS for Windows version 8.2 (SAS Institute Inc. USA)で行った。喫煙および飲酒行動と関連要因とのクロス集計表以外の表の相対度数(%)は，本調査の抽出方法に従って算出した。

表1 性，学年別飲酒頻度

(単位 %)

	年1～2回	月1～2回	週末	週数回	毎日	飲まない	無回答	週1回以上(再)	合計(人数)
2000年度調査									
男子									
中1	29.8	9.8	2.3	1.5	0.1	55.4	1.0	4.0	8 248
中2	29.0	11.8	3.4	2.2	0.5	52.1	1.0	6.0	8 541
中3	28.2	16.2	4.0	3.1	0.6	46.8	0.9	7.8	8 559
高1	25.9	25.5	6.8	4.4	0.8	36.5	0.2	11.9	10 590
高2	24.1	31.0	8.2	5.7	0.8	30.0	0.3	14.7	9 662
高3	23.1	32.9	9.0	6.8	1.2	26.7	0.3	17.0	8 976
女子									
中1	28.0	8.7	1.7	1.3	0.3	58.9	1.1	3.3	7 124
中2	28.1	11.0	2.6	1.6	0.3	55.2	1.2	4.5	7 375
中3	28.9	12.6	2.4	1.8	0.3	53.0	1.0	4.5	7 399
高1	29.4	24.1	4.0	2.8	0.2	39.3	0.3	7.0	10 552
高2	31.5	27.2	4.9	2.5	0.3	33.4	0.3	7.7	9 938
高3	31.7	29.6	5.3	2.9	0.5	29.8	0.3	8.7	9 333
1996年度調査									
男子									
中1	40.9	12.2	1.5	2.3	0.6	41.9	0.7	4.3	7 211
中2	38.1	15.8	1.9	4.1	0.7	38.9	0.5	6.7	7 152
中3	36.3	17.3	2.1	4.9	1.1	37.8	0.5	8.2	7 108
高1	33.3	26.7	4.2	5.7	0.8	28.8	0.5	10.7	12 079
高2	29.8	32.9	5.5	7.5	1.0	22.7	0.5	14.1	12 645
高3	26.8	34.7	6.4	8.7	1.7	21.3	0.5	16.8	10 921
女子									
中1	36.6	10.0	0.8	1.8	0.5	49.7	0.6	3.1	7 158
中2	37.9	11.5	0.9	2.7	0.4	45.9	0.7	4.1	6 966
中3	37.4	12.7	1.3	2.6	0.6	45.1	0.3	4.4	7 203
高1	39.1	19.8	1.7	3.1	0.5	35.0	0.6	5.4	12 617
高2	37.8	26.8	2.5	3.8	0.2	28.2	0.6	6.6	12 771
高3	38.8	28.9	2.6	3.9	0.5	24.4	0.9	7.0	11 983

注 層別にウエイトをかけて点推定値(%)を計算しているため，人数を合計で割った割合とは異なる。

III 結　　果

(1) 飲酒行動

1) 飲酒状況

性，学年別飲酒頻度をみると，飲まないと回答した者の割合が男女とも学年が上がるにつれ減少していた。一方，月1～2回飲酒，週末ごとの飲酒および週数回の飲酒をする者の割合は男女とも学年が上がるにつれ増加した。週1回以上飲酒する者の割合は男子では中学1年で4.0%(1996年4.3%)であったものが，高校3年では17.0%(1996年16.8%)に達した。女子では，中学1年で3.3%

表2　性，学年別飲酒頻度

（単位　%）

	0日	1～2	3～5	6～9	10～19	20～29	毎日	無回答	月10日以上	月20日以上	合計（人数）	飲酒経験	仲間と飲酒経験	月飲酒	毎日飲酒
2000年度調査															
男　子															
中1	74.0	17.4	4.1	1.7	0.9	0.3	0.1	1.5	1.3	0.4	8 248	58.8	16.0	24.5	0.1
中2	69.6	19.1	5.0	2.7	1.5	0.4	0.3	1.3	2.2	0.7	8 541	64.0	22.5	29.1	0.3
中3	65.6	20.4	5.9	3.5	2.3	0.5	0.5	1.2	3.4	1.1	8 559	70.7	33.0	33.1	0.5
高1	56.3	23.3	9.1	6.0	3.5	0.8	0.5	0.4	4.9	1.3	10 590	79.2	56.6	43.3	0.5
高2	49.5	25.0	12.1	7.0	4.3	1.2	0.5	0.4	6.0	1.7	9 662	84.1	68.9	50.1	0.5
高3	46.2	25.5	12.1	8.4	5.3	1.5	0.7	0.4	7.5	2.2	8 976	88.0	76.9	53.4	0.7
女　子															
中1	75.6	16.2	3.7	1.7	0.8	0.2	0.2	1.5	1.3	0.4	7 124	59.0	15.4	22.8	0.2
中2	71.8	17.8	5.4	2.1	0.9	0.3	0.2	1.5	1.5	0.6	7 375	65.2	21.6	26.7	0.2
中3	71.9	18.4	5.1	1.7	1.2	0.3	0.2	1.2	1.7	0.5	7 399	68.5	27.4	26.9	0.2
高1	60.7	24.3	8.2	3.7	2.1	0.3	0.1	0.5	2.6	0.5	10 552	81.0	51.3	38.8	0.1
高2	57.1	26.4	9.1	4.4	2.0	0.4	0.2	0.4	2.6	0.6	9 938	84.1	63.4	42.5	0.2
高3	54.2	26.6	11.1	4.2	2.4	0.5	0.3	0.6	3.3	0.9	9 333	87.3	70.4	45.2	0.3
1996年度調査															
男　子															
中1	73.5	17.5	4.4	1.8	1.1	0.3	0.5	1.0	1.9	0.7	7 211	70.3	25.7	26.0	0.5
中2	68.1	19.1	6.5	2.7	1.7	0.8	0.5	0.7	3.0	1.2	7 152	74.9	33.5	30.4	0.5
中3	67.2	19.3	6.3	2.7	1.8	0.8	0.8	1.1	3.5	1.6	7 108	76.4	42.1	32.1	0.8
高1	55.7	26.0	10.0	3.9	2.9	0.7	0.5	0.4	4.1	1.2	12 079	84.6	62.7	43.9	0.5
高2	47.6	27.6	13.3	5.9	3.5	0.9	0.7	0.5	5.2	1.6	12 645	88.0	74.1	52.5	0.7
高3	46.0	26.6	14.0	5.8	4.2	1.6	1.2	0.6	6.9	2.8	10 921	89.4	80.0	54.9	1.2
女　子															
中1	77.9	15.6	3.4	1.2	0.6	0.3	0.4	0.7	1.3	0.7	7 158	68.1	19.4	22.2	0.4
中2	74.4	17.6	4.4	1.4	0.8	0.3	0.4	0.7	1.5	0.7	6 966	71.9	24.8	24.6	0.4
中3	74.1	18.3	4.1	1.2	1.2	0.3	0.4	0.4	1.9	0.7	7 203	74.3	33.1	25.4	0.4
高1	63.7	24.2	7.1	2.2	1.5	0.3	0.5	0.6	2.3	0.8	12 617	83.5	54.3	34.9	0.5
高2	56.0	28.6	9.7	2.8	1.7	0.3	0.2	0.6	2.3	0.5	12 771	87.3	68.3	43.3	0.2
高3	56.3	28.1	9.9	2.6	1.7	0.5	0.3	0.6	2.5	0.9	11 983	90.1	78.2	43.4	0.3

注　1)　月飲酒者率（現在飲酒者率）：この30日間に1日でも飲酒した者の割合，毎日飲酒者率：この30日間に毎日飲酒した者の割合
　　2)　層別にウエイトをかけて点推定値（%）を計算しているため，人数を合計で割った割合とは異なる。

（1996年3.1%）であったものが，高校3年では8.7%（1996年7.0%）に上昇した。毎日飲酒する者の数は少ないが，男子では学年が上がるにつれ増加した。一方，女子では，はっきりした傾向は認められなかった。男子は女子に比べ飲酒率が高い傾向にあった（表1）。

この30日間の飲酒日数をみると，男女とも0日の者の割合が学年が上がるにつれ減少し，1日以上の者の割合（月飲酒者率）が上昇する傾向にあった。この30日間に10日以上飲酒した者の割合は中学1年男子で1.3%（1996年1.9%）であったものが，高校3年男子では7.5%（1996年6.9%）に上昇した。同様に中学1年女子では1.3%（1996年1.3%）であったものが，高校3年女子では3.3%（1996年2.5%）と男子に比べ小さな増加であった（表2）。

2)　飲酒機会

飲酒機会別の飲酒経験率をみると男女とも冠婚葬祭が高かった。家族と一緒のときも経験率が高かった。この2つの機会は学年が低いとき

表3　性，学年別飲酒機会別にみた飲酒経験

（単位　%）

	一人で	コンパ	居酒屋	仲間と部屋で	家族と	冠婚葬祭
男　子						
1996年						
中1	6.4	3.5	4.0	4.9	35.6	54.0
中2	10.4	4.4	5.4	11.4	38.8	55.8
中3	14.3	7.8	7.5	17.4	39.1	57.3
高1	21.0	22.3	19.3	38.0	40.8	59.5
高2	28.9	34.3	33.7	49.5	44.9	59.5
高3	38.5	45.2	45.4	56.3	46.3	61.3
2000年						
中1	4.5	2.6	3.2	3.4	29.9	42.5
中2	7.7	3.4	3.8	7.9	33.2	46.5
中3	13.2	7.6	7.0	15.9	38.1	51.0
高1	20.3	22.9	17.6	35.5	40.8	55.3
高2	27.5	33.3	29.7	47.1	44.5	58.1
高3	34.2	44.0	42.6	55.8	49.0	60.2
女　子						
1996年						
中1	4.7	2.6	3.2	5.2	37.1	52.3
中2	7.2	3.4	5.2	8.6	41.3	55.7
中3	8.8	6.2	8.0	14.8	41.5	57.5
高1	12.5	19.8	16.4	30.3	43.7	60.3
高2	17.0	31.2	29.4	42.0	47.5	59.9
高3	21.0	40.9	40.6	51.3	47.6	61.1
2000年						
中1	4.4	1.9	3.3	4.2	32.9	42.5
中2	6.0	2.8	4.4	8.2	38.0	47.5
中3	7.7	5.2	6.5	13.5	40.8	49.2
高1	12.4	20.5	16.9	30.4	46.9	56.0
高2	15.9	28.9	27.2	40.2	49.0	55.8
高3	19.1	37.3	36.9	48.0	51.0	56.7

から経験率が高く学年が上がってもさほど上昇しないが，「クラス会，打ち上げ，コンパの時」「居酒屋，カラオケボックス，飲み屋で仲間と」「誰かの部屋で仲間と」飲んだとする者の割合は学年が上がるにつれ急激に上昇した。特に誰かの部屋で仲間と飲んだことのある者の割合は高校3年では男女とも5割前後であった。飲酒機会別の経験率はどの機会も男女差は小さかった(表3)。

3) 飲酒量

飲酒量は答えやすくするために酒の種類を問わず，「コップで何杯か」に聞き方を統一した。学年が上がるにつれ少量の飲酒をする者の割合が減少し，多量の飲酒をする者の割合が増加した。コップ6杯以上飲む者の割合は学年が上がるにつれ増加した。つぶれるまでと回答した者の割合は，高校3年男子で10.9%(1996年10.8%)，高校3年女子で4.2%(1996年4.0%)であった。

4) 初めての飲酒年齢

初めての飲酒年齢をみると，学年が低いほど低年齢で初めて飲酒したと回答している傾向にあった。すなわち，中学1年では男子で11～12歳，女子は9～10歳(1996年では男女とも9～10歳)と回答した者の割合が最も多かったが，高校3年では15～16歳(1996年では15～16歳)と回答した者の割合が最も多かった(表4)。初めての飲酒を8歳以下で経験した者の割合は，中学1年で男子28.2%，女子31.3%(1996年では男子34.0%，女子33.3%)であり，学年に伴って減少し，高校3年では男子11.9%，女子12.8%(1996年では男子20.0%，女子18.8%)であった。この理由には飲酒経験の低年齢化，低学年はそれより上の学年を経験していないので，それだけその学年以下だと回答する者の割合が相対的に多くなること，および学年が上がるほど思い出しのバイアスにより現在年齢に近い経験年齢を答える傾向にあることとが考えられる。

わが国では大人が冠婚葬祭などに少量の飲酒を子供に勧めることも多く，初めての飲酒年齢だけでは飲酒経験のよい指標にならないのではないかとの意見もある。したがって，本調査では，問題飲酒のひとつの入り口として仲間といっしょに飲むことを取り上げ，初めて仲間と飲

表4 性，学年別にみた初めての飲酒年齢[2)]

(単位 %)

	8歳以下	9～10歳	11～12	13～14	15～16	17歳以上	合計(人数)
2000年度調査							
男子							
中1	28.2	33.0	33.8	5.0	・	・	4 554
中2	23.9	25.6	31.8	18.5	・	・	5 234
中3	22.9	17.8	24.1	31.0	4.1	・	5 786
高1	16.2	13.1	20.2	34.9	15.5	・	8 262
高2	13.2	10.4	16.1	30.8	28.0	1.6	8 005
高3	11.9	7.9	12.1	26.0	33.5	8.4	7 786
女子							
中1	31.3	33.9	31.1	3.8	・	・	4 079
中2	28.1	24.1	31.2	16.5	・	・	4 687
中3	24.4	19.1	25.8	27.2	3.5	・	4 960
高1	18.5	14.6	19.8	32.0	15.1	・	8 419
高2	16.1	11.2	15.1	28.1	28.2	1.4	8 334
高3	12.8	8.9	12.3	23.9	32.6	9.4	8 063
1996年度調査							
男子							
中1	34.0	37.0	26.2	2.5	・	・	5 165
中2	30.0	27.9	31.1	10.9	・	・	5 366
中3	29.6	19.8	27.4	20.6	2.5	・	5 517
高1	22.4	15.6	23.9	28.2	9.9	・	10 199
高2	21.3	13.0	18.7	26.5	19.6	0.9	11 148
高3	20.0	10.5	15.3	24.1	25.8	4.2	9 745
女子							
中1	33.3	35.6	28.9	2.2	・	・	5 037
中2	29.4	27.1	33.4	1.0	・	・	5 074
中3	28.2	21.0	27.5	21.4	1.8	・	5 464
高1	21.8	16.1	23.3	27.6	11.2	・	10 564
高2	19.9	12.8	18.2	25.6	22.4	1.0	11 181
高3	18.8	9.8	14.9	21.8	28.5	6.2	10 688
仲間との飲酒の経験学年[3)]							
2000年度調査							
男子							
中1	12.6	23.6	46.7	16.4	・	・	1 319
中2	8.4	12.1	32.0	46.7	・	・	1 909
中3	5.5	5.0	15.6	58.7	15.1	・	2 825
高1	2.0	2.1	8.5	48.9	38.5	・	6 050
高2	1.2	1.1	4.9	31.5	57.5	3.7	6 671
高3	1.5	0.8	3.4	23.1	54.0	17.2	6 900
女子							
中1	15.7	21.5	48.2	14.1	・	・	1 106
中2	8.4	12.1	30.8	47.6	・	・	1 601
中3	4.9	6.1	16.0	60.3	12.6	・	2 050
高1	1.9	1.9	8.6	43.8	43.8	・	5 457
高2	1.0	1.0	4.9	26.8	61.6	4.6	6 314
高3	0.9	0.9	3.2	18.2	55.6	21.2	6 549
1996年度調査							
男子							
中1	14.5	23.9	48.2	13.0	・	・	1 590
中2	8.0	9.9	39.5	41.8	・	・	2 064
中3	5.2	5.5	21.2	56.6	11.4	・	2 824
高1	1.7	2.3	10.4	48.6	36.9	・	7 422
高2	1.5	1.1	6.2	33.0	55.3	2.8	9 216
高3	1.4	0.9	4.9	24.1	55.3	13.4	8 584
女子							
中1	15.5	25.8	49.5	8.8	・	・	1 217
中2	7.4	11.2	39.3	41.2	・	・	1 623
中3	3.6	6.3	23.7	57.2	8.6	・	2 352
高1	1.4	1.8	12.3	45.2	39.3	・	6 619
高2	0.8	1.0	6.9	29.1	58.2	4.0	8 556
高3	0.7	0.6	4.6	20.0	55.6	18.5	9 099

注 1) 層別にウエイトをかけて点推定値(%)を計算しているため，人数を合計で割った割合とは異なる。
2) 各学年の飲酒者を分母とした場合
3) この質問の仲間との飲酒者数を分母とした場合

んだ年齢を尋ねた。仲間と初めて飲んだ年齢は，初めて飲んだ年齢よりも高い傾向にあった。男女とも中学1年では11～12歳(1996年では11～12歳)と回答した者の割合が最も高かったが，高校3年では15～16歳(1996年では15～16歳)が最も高かった。学年が上がるにつれ初めて仲間と飲んだ年齢が上がることは，初めての飲酒の場合と同様であった(表4)。

5) よく飲むお酒の種類

よく飲むお酒の種類は男子ではビールが最も多く，次いでアルコール度が低く甘いお酒(果物味などの甘いお酒；リキュール類)，焼酎およびサワー類，であった。焼酎およびサワー類は低学年では多くはないが，学年が上がるにつれ急激に増加し，高校3年男子ではワインや日本酒よりも割合が高かった。逆に，ビールと果物味などの甘いお酒は低学年でもよく飲まれていた。女子では果物味などの甘いお酒の方がビールよりよく飲まれていた。3番目に多かったのが焼酎およびサワー類であった。女子の場合も焼酎およびサワー類は学年が上がるにつれ増加した(表5)。飲酒者に占める割合をみると，中学1年男子の50.9%(1996年58.0%)がビールを飲んでおり，その割合は学年が上がるにつれ上昇し，高校3年男子では66.5%(1996年77.5%)であった。男子では果物味の甘いお酒を飲む者がどの学年でも飲酒者の5割前後認められた。また，ウイスキー，ブランデー，ウォッカといった強いお酒を飲む者は男子では学年が上がるにつれ増加し，高校3年では飲酒者の12.1%(1996年20.9%)に認められた。1996年度調査と比較すると，2000年度では強い酒を飲む者の割合が減少したが，焼酎類を飲む者の割合が大幅に増加した(2000年高校3年42.6%，1996年29.3%)。女子ではどの学年でも飲酒者の6～7割以上の者が果物味の甘いお酒を飲んでいた。比較的飲酒頻度が低い者にもよく飲まれている酒の種類はビール，果物味の甘いお酒であった。1996年度調査と比較して，女子でも強い酒を飲む者の割合がやや減少し，焼酎類を飲む者の割合が増加

表5 性，学年別にみたよく飲むお酒の酒類

(単位 %)

	強い酒	焼酎類	ワイン	日本酒	果物味の酒	ビール
男子						
1996年						
中1	8.7	14.6	21.9	26.2	49.9	58.0
中2	10.6	14.3	22.0	23.7	51.8	59.1
中3	11.4	17.1	22.4	25.2	51.6	62.1
高1	14.4	20.1	20.0	23.1	53.8	68.0
高2	17.3	24.8	18.4	22.8	49.5	73.7
高3	20.9	29.3	18.3	25.2	42.3	77.5
2000年						
中1	4.1	20.3	27.3	18.4	48.1	50.9
中2	6.7	22.0	28.8	20.5	48.7	52.5
中3	7.1	26.9	29.7	20.4	50.0	54.5
高1	9.4	34.6	25.6	21.0	56.2	58.1
高2	10.6	38.3	21.7	20.5	55.7	62.7
高3	12.1	42.6	21.7	22.0	52.6	66.5
女子						
1996年						
中1	6.5	14.9	22.2	18.8	67.5	46.2
中2	7.7	17.3	24.6	18.7	68.9	45.6
中3	8.1	17.0	23.9	16.6	72.4	44.0
高1	7.1	19.3	20.6	14.3	77.3	44.9
高2	7.9	26.7	19.9	12.6	77.1	46.9
高3	8.6	33.8	19.7	13.1	75.7	49.0
2000年						
中1	3.5	22.6	30.8	13.2	63.2	40.0
中2	4.4	26.9	29.6	14.2	66.1	37.5
中3	4.4	26.3	26.8	11.0	70.3	35.8
高1	3.9	35.4	24.1	11.7	75.3	35.1
高2	3.7	38.7	21.0	10.5	78.3	35.6
高3	4.6	42.2	21.3	10.6	77.6	37.5

注 本質問における飲酒者数を分母とした場合

表6 性，学年別にみたお酒を手に入れる方法

(単位 %)

	もらう	居酒屋	自販機	酒屋で買う	コンビニで買う	家にある酒
男子						
1996年						
中1	6.8	4.7	6.1	5.6	9.4	66.5
中2	7.9	5.5	11.6	7.7	16.0	66.9
中3	10.6	6.1	16.6	10.7	25.8	65.8
高1	15.9	15.6	25.3	20.2	46.7	55.4
高2	18.0	28.4	32.2	29.6	56.5	52.4
高3	19.1	40.6	35.9	36.7	61.5	52.9
2000年						
中1	5.6	4.4	4.0	3.5	6.6	70.6
中2	8.7	4.7	6.9	5.8	12.0	71.8
中3	11.8	6.9	12.8	9.3	23.2	67.8
高1	19.7	15.1	20.3	17.6	45.6	57.7
高2	19.9	26.5	22.1	24.6	58.4	53.5
高3	19.9	39.2	23.9	33.1	65.4	52.2
女子						
1996年						
中1	6.7	4.3	5.0	5.8	11.9	74.9
中2	7.3	6.1	8.1	7.2	18.1	72.1
中3	9.2	8.8	9.6	9.3	25.2	70.9
高1	13.6	13.7	15.5	15.5	42.5	61.7
高2	15.0	27.0	17.7	21.1	53.7	57.4
高3	14.6	38.9	21.1	28.8	59.8	53.1
2000年						
中1	7.6	5.4	4.0	4.8	9.9	74.1
中2	8.9	6.4	5.6	5.1	16.7	74.0
中3	11.4	7.7	7.4	7.7	23.2	72.1
高1	18.1	16.3	11.1	12.0	42.4	63.4
高2	17.5	27.1	11.0	15.5	53.7	57.6
高3	15.6	38.2	11.3	21.8	59.3	55.7

注 本質問における飲酒者数を分母とした場合

した(2000年高校3年42.2%，1996年33.8%)。

6) お酒の入手経路

中学1年では男女とも家にあるお酒を飲む者が多かった。その割合は学年が上がるにつれ徐々に減少した。次いで，「コンビニエンスストア，スーパーマーケットで買う」「居酒屋等で飲む」「酒屋で買う」「自動販売機で買う」等が多かったが，いずれも学年が上がるにつれ割合が急激に増加した。しかも男女差がさほどないことも特徴であった(表6)。高校3年男子の飲酒者の6割強がコンビニエンスストアでお酒を買っており，約4割が居酒屋などで飲んでいることが明らかとなった。しかもそれらは女子でもほとんど同様の割合であった。

7) お酒を飲んで失敗した経験

お酒を飲んで失敗した経験は「吐いた」「記憶が消えた」「親に叱られた」の順に多かった。このうち「吐いた」「記憶が消えた」は学年が上がるにつれ割合が上昇した(表7)。いずれの失敗の経験率も男子の方が高かったが，「記憶が消えた」「親に叱られた」の割合は男女差が小さかった。飲酒機会を聞く質問での飲酒者数を分母とすると，高校3年男子の飲酒者の39.4%(1996年37.9%)が既に「吐く」ことを経験しており，19.1%(1996年20.4%)が「記憶が消えた」ことを経験していた(表7)。警察沙汰を起こした者も既に認められた。

表7 お酒を飲んだ上での失敗経験

(単位 %)

	警察沙汰	けんか	親に叱られた	記憶が消えた	吐いた
男子					
1996年					
中1	1.6	2.3	9.5	7.2	8.9
中2	1.1	2.6	8.5	8.1	8.7
中3	1.9	3.3	7.5	12.2	11.2
高1	1.4	4.1	8.7	15.3	17.5
高2	2.0	4.5	8.0	18.7	27.0
高3	2.6	5.5	7.8	20.4	37.9
2000年					
中1	0.7	1.5	7.2	6.6	6.5
中2	1.0	1.7	7.7	8.7	8.8
中3	1.0	2.6	7.4	11.2	11.2
高1	1.5	3.6	7.9	15.8	20.6
高2	2.0	3.7	7.8	18.4	30.0
高3	2.3	5.1	7.1	19.1	39.4
女子					
1996年					
中1	0.5	0.8	5.2	5.1	4.1
中2	0.8	1.3	6.5	7.1	4.3
中3	0.7	1.5	5.3	7.1	5.9
高1	0.7	1.4	5.3	12.0	8.7
高2	0.5	1.3	5.5	14.8	14.7
高3	0.7	1.5	6.0	17.2	21.0
2000年					
中1	0.3	0.9	5.8	6.1	4.4
中2	0.3	1.1	4.9	7.6	5.1
中3	0.5	0.8	5.3	9.5	7.9
高1	0.5	1.2	5.3	13.9	11.5
高2	0.5	1.3	5.3	15.3	16.9
高3	0.6	1.2	5.0	15.9	22.1

注 飲酒者数が分母

8) お酒を親に勧められた経験

親にお酒を勧められたことがあると回答した者は，中学1年男子で22.3%，女子で20.8%(1996年男子27.4%，女子24.3%)であり，男女とも学年が上がるにつれ増加し，高校3年では男子44.2%，女子40.7%と4割以上であった(1996年男子44.2%，女子42.2%)。

Ⅳ 考 察

今回の全国調査により，多くの未成年者が既に飲酒を始めていることが改めて明らかになった。前回の1996年度全国調査の結果と比較して，最も重要な指標である月飲酒者率(現在飲酒者率)がほぼ同じであったことは，この全国調査の方法が適切とすれば，わが国の中高生の飲酒実態が一向に改善していないことを示すものである。喫煙行動と比較して，飲酒行動は男女差が小さいのが特徴である[15)16)]。これは，喫煙と異なり集団で酒を飲む機会があることによると考えられる。また，月喫煙者率より月飲酒者率の方が男女とも高く，毎日飲酒者率は毎日喫煙者率に比較して極めて低いのが，青少年の飲酒行動の特徴であるといえる[15)16)]。1996年度調査と2000年度調査の結果を比較すると，前回に比べ2000年度では中学生の飲酒経験率および仲間との飲酒経験率の減少が認められた。これは特に男子で顕著であった。しかし，月飲酒者率はほとんど変化がなく，女子の中学2年から高校1年にかけてはむしろ増加している[13)]。これは，中学で始まった飲酒行動の改善の成果がまだ月飲酒者率(現在飲酒者率)に反映しないのか，経験率が下がっても常習的な飲酒行動には影響がないのか，不明である。今後とも定期的に全国調査を継続して，動向を見守る必要がある。

前回調査の結果と比較して，男子では8歳以下で経験した者の割合が減少し，女子の減少幅より大きかったので，むしろ女子のほうが8歳以下で経験した者の割合が高い結果が得られた。また，男女とも初めての飲酒経験年齢の分布が各学年とも1996年度調査と比較して高い年齢にシフトしていた。仲間との飲酒経験率の結果は，前回調査に比べ特に男子で減少していたが，経験年齢をみると仲間との飲酒経験年齢はさほど変化がなかった。また，機会別の飲酒経験を比較すると，2000年度調査において中学生で男女とも「家族といっしょの時」「冠婚葬祭」での飲酒経験率が低下した。これが，親が子どもの飲酒についての認識を深めた結果であれば喜ばしいことである。しかし，飲酒経験率が下がり，経験年齢が上がっても，より問題視すべき仲間との飲酒経験年齢は変わらないので，今後とも監視が必要である。

以上の結果を総合すると，女子では飲酒者率の上昇という心配される傾向が発生し始めているかもしれない。現状では，このような傾向が確定したわけではないので，この点に焦点を当てた継続的な監視が必要である。

欧米諸国の青少年の飲酒実態とわが国のそれを比較すると，大人の飲酒者率も高いヨーロッパ諸国の青少年の飲酒者率よりはわが国の中高生の飲酒者率は男女とも低い傾向にあるが，13歳までに飲酒を経験する者の割合はわが国の方が高い傾向にある[4)-6)]。これはわが国独特の冠婚葬祭での飲酒経験が影響していると考えられる。アメリカ合衆国での調査結果と比較すると，飲酒経験者率，月飲酒者率ともにわが国はアメリカ合衆国に近いレベルに到達していることが明らかになった[7)-12)]。2000年を過ぎてからアメリカ合衆国では飲酒者率が減少し始めていることが示唆されているが[7)-12)]，わが国ではそのような傾向はまだ認められていない。

飲酒量，よく飲む酒の種類について1996年度と2000年度調査結果を比較したところ，これらの変化はあまり大きくはなかったが，男女ともよく飲む酒の種類に変化が認められた。すなわち，男女とも焼酎類を飲む者の割合が増加し，ビールを飲む者の割合が減少した。高校女子では，果物味の甘いお酒（リキュール類）に続いて焼酎，チュウハイが2番目によく飲まれている酒となった。男子では最もよく飲まれているビールと2番目の果物味の甘いお酒の差が小さくなった。この意義や原因は明らかではないが，広告等のマーケティングの分析を踏まえて今後検討していく必要があると考える。

酒の入手経路をみると，1996年度と比較して2000年度では，自動販売機および酒屋で買う者の割合が，中高，男女ともに減少していた。これは，業界（全国小売酒販組合）の自主規制による酒類自動販売機設置数減少の成果かもしれない(1996年3月末で全国に185,800台あったのが，2001年4月1日には79,700台と57%減少した）[18)]。しかし，現在飲酒者率に変化がないこと，コンビニエンスストア等の店で買う者の割合は減少していないなど，まだ課題は多いと考えられる。

このようにわが国の中高生の飲酒実態は既に深刻な状況にある。飲酒経験者率の減少，飲酒経験年齢の上昇および酒入手経路の一部の減少など良い方向の変化の兆しも認められたが，一方で女子の飲酒者率増加の可能性など一部では状況の悪化も心配される。今後とも全国調査による継続的監視が必要である。

本研究は，平成12年度厚生科学研究費補助金(厚生科学特別研究事業)による未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査研究班(主任研究者：上畑鉄之丞)の研究として実施されたものである。

文　献

1）鈴木健二．現代子どもの飲酒問題．白倉克之，丸山勝也，編．アルコール医療入門．東京：新興医学出版社，2001；86-8.

2）鈴木健二．子どもの飲酒があぶない．東京：東峰書房，1995.

3）鈴木康夫，鈴木芳江，枝窪俊夫，大原健士郎．高校生のアルコール乱用について Adolescent Alcohol Involvement Scale（AAIS）を施行して．Jpn

Alcohol & Drug Dependence 1981；16(3)：262-72.

4) Hibell B, Andersson B, Ahlstrom S, et al. The 1999 ESPAD report：Alcohol and other drug use among students in 30 European countries. Stockholm, Sweden. The Sweden Council for Information on Alcohol and Other Drugs, 2000.

5) King A, Wold b, Tudor-Smith, Harel Y. The Health of Youth：A cross-national survey. A report of the 1993-94 survey results of Health Behaviour in school-aged children. A WHO cross-national survey. WHO regional publications. European series；No.69. Canada. The Regional Office for Europe of the World Health Organization, 1996.

6) Currie C, Hurrelmann K, Settertobulte W, et al. Health and Health Behaviour among Young people. Health Behaviour in School-aged Children：a WHO Cross-National Study (HBSC) International Report. Copenhagen, Denmark. WHO regional office for Europe, 2000.

7) Centers for Disease Control and Prevention. Youth Risk Surveillance-United States, 1993. Surveillance Summary. MMWR 1995：44(SS-1)：1-57.

8) Centers for Disease Control and Prevention. Youth Risk Surveillance-United States, 1995. Surveillance Summary. MMWR 1996：45(SS-4)：1-85.

9) Centers for Disease Control and Prevention. Youth Risk Surveillance-United States, 1997. Surveillance Summary. MMWR 1998：47(SS-3)：1-93.

10) Centers for Disease Control and Prevention. Youth Risk Surveillance-United States, 1999. Surveillance Summary. MMWR 2000：49(SS-5)：1-98.

11) Centers for Disease Control and Prevention. Youth Risk Surveillance-United States, 2001. Surveillance Summary. MMWR 2002：51(SS-4)：1-66.

12) Johnston LD, O'Malley PM, Bachman JG. Monitoring the future national survey results on drug use, 1975-2001. Volume I：Secondary school students (NIH publication No.02-5106). MD, U.S. National Institute on Drug Abuse, 2002.

13) 尾崎米厚，簑輪眞澄，鈴木健二，和田清．中高生の飲酒行動に関する全国調査．日公衛誌 1999；46(10)：883-93.

14) Suzuki K, Minowa M, Osaki Y. Japanese national survey of adolescent drinking behavior in 1996. Alcohol Clin Exp Res 2000；24(3)：377-81.

15) 尾崎米厚，鈴木健二，和田清，山口直人，簑輪眞澄，大井田隆，他．わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査(2000年度調査報告)．厚生の指標 2004；51(1)：23-30.

16) 尾崎米厚，簑輪眞澄．わが国の中・高生の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率．日本公衛誌 1993；40(1)：37-48.

17) Osaki Y, Minowa M. Cigarette smoking among junior and senior high school students in Japan. J Adolesc Health 1996；18：59-65.

18) 国税庁．酒類自動販売機の設置状況について．http://www.nta.go.jp/category/press/press/syuhanbai13/01.htm. アクセス2003年4月22日．